庭づくりによる環境の個人化

小野 佐和子*

The Personalization of the Environment with Gardening

Sawako ONO

摘要：公園とは種類の異なるオープンスペースとしての庭のもつ意義をさぐるために、公園の共用空間で庭づくりを行っている人々に聞き取り調査を行った。その結果、庭は、共用地でありながら個人の自由にできる空間であること、物理的・心理的距離、植物の種類や数、住み手の人柄を反映するデザイン、育つ植物を見ることにおいて公園とは異なる特質を持つこと、庭づくりの経過や特別の出来事と結び付いた植物の存在が庭への愛着を深くすることが明らかになり、庭づくりが場所との個人的で親密な関係を育て、住民による主体的な環境形成の働きをもつことを認めた。

はじめに

庭づくりは、土地に手を加えることで環境を個人化する¹⁾。土を掘り、種を蒔き、日々手入れをしながら植物の成長を見守る過程を通じて、作り手は環境形成にたずさわっていき、場所とのあいだに個人的で親密な関係をつくりあげていく。共用空間で庭づくりが行われる時、庭のこの特質が、公園などとは異なる意味を、都市オープンスペースに与える²⁾。

わが国ではまだこの点に関する研究は見られないが、アメリカではM. フランシスが、カリフォルニア州サクラメント市の公園内コミュニティガーデンについての調査で、公園を一部の人が使うコミュニティガーデンが、コミュニティガーデン利用者ばかりでなく非利用者からも高い評価を受けていること、場所が個人化されることで、公的管理がなされる公園とは異なる意味が場所に付与されたことがその理由にあることを指摘している³⁾。

本稿では、共用空間の庭づくりの例として集合住宅の共有地での庭づくりをとりあげ、庭の作り手のことばをてがかりに、庭づくりによる環境の個人化の有様と意義をあきらかにする。なお、集合住宅の共用空間での庭づくりについては、延藤等の一連の研究がある。そこでは、庭づくりによる共用空間の積極的な活用が、個人と環境を関係づける働きをもつことが明らかにされている⁴⁾が、その具体的な様相はつまびらかでない。

庭の作り手の話は、地域の人間関係に関わる部分と庭の動植物に関わる部分に大別されるが、本稿では植物と関係する部分について報告する⁵⁾。

1. 調査

(1) 調査対象地

西経堂団地は世田谷区船橋にある公園の賃貸住宅で、1958年に入居開始。4階建および5階建の鉄筋コンクリート造26棟、660戸。容積率は56%と低い。

60年代末から庭づくりが始まり、10年ほど前、庭の区域をコンクリートで囲い芝生地と区別した。住人すべてが等分に耕すのが原則だが、実際は希望者のみ庭づくりを行っており、個々の庭の広さもまちまちである。

(2) 調査対象者

団地自治会より紹介された庭づくりに熱心な人たちのうち、聞き取り調査に応じてくれた11名である。表1に見るように、庭づくり歴が長く、庭づくりに関する情報のキイ・パーソンだと考えられる。11名中10名が女性である。

(3) 調査方法

庭の作り手の話を分析の対象とする⁶⁾。1992年12月から翌年1月に、作り手の自宅で、設問(表2)について話を聞いた。一人あたりの調査時間は1時間半から2時間である。また後日、各庭の概略図を作成した。

2. 自分の自由にできる場所としての庭

庭の作り手が庭をどのように見たり感じたりしているかを聞いてみると(表3)、作り手にとって庭は、1. 落ち着く、やすらぎ、安心感、ストレス解消といった精神的な安定をもたらす場所。2. 自分の自由にできる場所であり、3. 自分の物だという所有感を持つことができる。また、庭づくりは4. 生きがいであり、楽しみである。庭は、5. 自然に接する場所であり、6. 手入れの結果が出る場所である。さらに、7. 生まれたときから庭があったから、庭のない生活はいやといった、原風景的とらえかたも存在する。

*千葉大学園芸学部緑地・環境学科

この庭が集合住宅の共用空間にあることから注目されるのは、自分の自由になる場所だとする見方である。

もともと庭は、好きな草花を好きなように植えることができ

る点で、自分の自由にできる場所である。そのことは「自分で気に入ったものを植えたり取ったり、要するに、比較的自由になる、気ままに相手になってくれる場所」とMtさんが述べている。だが、西経堂団地の場合、庭づくりの場所は団地住民の共用空間でもある。だから、「どんな庭といわれても、自分の庭じゃないから(S)」ということばも出てくる。しかし一方では、「自分の物っていう満足感がありますね(M)」と、作り手に所有感を抱かせているのも事実である。そこで、「ほんとうは自分のものじゃないんだけど、自分の物って感覚で使いますから(K)」と、公共の場所を個人が自由に使えるという意味あいがこの自由には含まれている。したがって、庭は半公共の場所としての性格をもつ。だから、「団地ですから、あまりみっともなくしては皆さんのご迷惑(O)」あるいは「皆さんの土地で野菜というのはちょっと作り難いですよ(M)」という意見に代表される、コミュニティーを意識した、私有庭園とは異なる庭に対する意識が認められる。

3. 公園とのちがいに見る庭の特質。

庭への立ち入りは誰でも自由にできる。通りがかりの人が庭にはいりこんで花を眺めたり、子供が虫や果物をとったりすることもあり、庭は、団地内の緑地としての役割も果たしている。だが庭は、表4に示すように、公園や緑道とは異なっている。公園は、1. ひとつの物であり、2. 見るだけでさわれない。3. 専門家が計画して作り、4. 整備され管理されている。また、5. いろいろな規制がある。デザインは6. 決りきっている。7. 大きなまとまりであり、大勢でいろいろな事ができる。

これに対して庭は、1. 好きな時に好きなように、自分で手を入れることができる。2. 愛着がある。3. 花の数、種類が公園とは異なり、4. 住んでいるひとの趣味や好みがわかる。5. 育つ植物をみることができる。6. 気分的に楽である。7. こじんまりしている。

M. フランスは共用空間の庭と公園等既存のオープンスペースとの違いは、庭は1. 利用者によりデザインされ、作られ、管理される。2. 野菜や花を育てる、働く、人に会う、社交の場として利用者に評価される。3. 過剰利用や盗難などを避けるため、立札や囲い、施錠により立ち入り制限されることがある。4. 材料が変化に富むことにあると指摘している⁷⁾。このうち、1, 2, 4の項目が西経堂団地の意見に重なりあう。3の立ち入

表-1 回答者の属性

回 答 者	S	Ks	Sr	Kr	T	M	O	Sh	Tk	Mt	K
年 代	50	60	60	70	50	70	70	60	80	60	50
居 住 階	1	1	4	2	2	1	1	1	2	1	2
庭作り年数	5	8	32	10	33	30	30	30	30	25	30

り制限については、庭の作り手には特筆すべきこととして意識されていないことになる。庭への立ち入りが自由であり、眺めて楽しむことは誰にでもできることが、公園との違いとして意識されない理由だと考えられる。

(1) さわれる

共用空間の庭づくりでは、利用者が自主的に場所の形成に参画する。Ks, Sh, Krさんのことばは、見るだけの公園に対し、庭では、自分で手をいれて自分の好きなように場所をつくりだすことができることを指摘している。と同時に、「花が咲いて生けたいと思えばとってきて自由に生けられるし、実がなれば御近所にあげまじょうと思うし。それはできないわよね、公共のものは(Ks)」とあるように、庭で育ったものを自由に処分できることでもある。

この違いをShさんは見ることとさわることの違いとして表明しているが、それは単に行為のちがいを指すだけでなく、庭と公園それぞれに対する関係性の程度の違いをもたらす。環境を知覚する方法の内、視覚を通じた反応の特徴をトゥアンは、見ることは客観的であり、われわれの感情に深く入り込まない、見ている人は傍観者である。見えたものを遠いとみなしがちだと述べる。これに対して触れることは、世界を圧力や抵抗のひとつのシステムとして直接的に体験することであるとする⁸⁾。つまり、見ることは対象との間の距離の存在を意味する。その距離は物理的な距離であると同時に、心理的な距離でもある。「公園はひとつのもの」というKrさんのことばにも心理的な距離は現れていたが、「公園っていうと、ただ見るっていう感じね。そこに愛着はないわね。こう

表-2 質問項目

1. 自分の庭をどのように感じ、見ているか。
2. 公園／緑道とのちがい。
3. 庭づくりの過程。
4. 材料の入手法。
5. 満足していること。
6. 不満あるいはいやなこと。
7. 庭づくりで重要なこと。
8. 庭いじり以外の庭の使い方。
9. 庭をつづじた隣近所あるいは友人との関係。
10. 性格の反映。
11. 野菜をそだてるか。
12. 庭いじりをしている時の気分。
13. 大切な庭のいきもの。
14. 庭いじりにかける時間、費用。
15. 子供時代の庭。

いうふうにしたいとか、この花を植えたいとか、あんまりね（〇）」と言うことばも、公園との間の心理的な距離の遠さを示す。〇さんのことばはまた、庭が場所に対する能動的な関わりをうみだすことを示唆する。

実際に自分が環境を変えて行けることは、その場所に作り手が責任をもつことでもある。「公園だとさわれないし、管理は向こうだし、向こうの責任で、わしらの責任じゃないということで、他人まかせ。他人まかせだから関心がない。」と、調査に同席したShさんのご主人はその点を指摘している。

以上から、公園では場所との間に客観的で傍観者のな関係が存在するのに対し、庭では場所と作り手とのあいだに主観的で、感情と結び付いた個人的な関係が存在すると言える。

（２）育つ植物を見る

植物を育てる場所であることも公園と比べた場合に浮かび上がる庭の特質である。庭では植物の育つ過程に大きな注意が払われる。

K：やっぱり、植物を育てることね。それ以外にないわね。種をまいて、芽が出て、育てるのが一番楽しいわね。それで、夏なんか、どんどん大きくなって、やがては、花が咲いてとかさ。育てるって事が一番おもしろいわね。

ライリーは、庭園と公園の違いを自然の役割の違いに見る。「庭園の本質は、自然のコントロールだけでなく、そのコントロールを表明すること」であるのに対し、「公園は、コントロールの結果である育ったもの（産物）とコントロールの過程である育つことに注意をむけていない」というのである⁹⁾。

たしかに、庭の話では、育つ過程とともに、収穫物について語られることが多い。次の話は、育つことと、育った結果が興味のまとであることを示す。

K：柿はこんな小さなのを植えたのね。それがこうなったのよ。蜜柑の木も。結局、食べることに興味があるの。Sh：その柿は、娘が幼稚園の時、種を埋めたんです。それがなるんです。鳥が落した種からまた一本はえて、今年はその木に実が十いくつあったんですよ。おいしいんですよ。なる木が、楽しみですよ。

T：大きな木が枯れて、そのあとにいつのまにか木がはいだしたーそしたらみかんがなりだして、もう、びっくりぎょうてん。時々来る姉が、毎年取って、ジャムを作ってくれるの。おいしいジャムを作ってくれるの。

そして、この育つ過程に庭の作り手は積極的に介入する。それはまず、繁殖から始まる。「昔は毎年種をとってやっていました。それがまた一苦労だったんです（T）」「主人は接木専門、私は挿し木専門でずいぶんふやしました（M）」「都忘れは、買ってきた株をふやし、それをまたふやしていくんです（S）」と、採種、接木、挿し木、株分けにより作り手自身で繁殖が行われる。

毎日の手入れもある。「お花はちゃんと手をかけてあげないとね。手をかければかけたけのことはあるのね（S）」と、庭は始終、綿密で組織的な手入れを必要とする。それに、「それはやっぱり、大変ですよ。子育てと同じ。夏なんてじっとしているだけでも大儀なのに、草取りしなくちゃならない。蚊はいるしさ。雑草の勢ってすごいわよ。だめなのよね、片手間じゃね。」と、育児に匹敵する労力を要求される。

このように日々植物の生育環境を維持するなかに、環境全体を整えるまなざしも存在する。

Mt：この木がとか、このものがとかいうのはないですけど、全体としてね、だいたい3坪くらい、広さというものね。蛙もいるし、野鳥も飛んでくるし。それらが気安く、気楽にいられるような状態にはしたいなと思っている。そういうものが大事だなと思っている。

（３）花の数と種類

個々の庭に植えてある植物の種類を見ると、単位面積あたりの種類数の多さと、一般の公園では使用されにくい種類が、特に多年草に多いことに気づく（表５）。公共造園でふつう使われない高木としては、サンショウのように料理に使うもの、あるいはカキやミカンといった果樹である。全体に、花の咲く低木や、木本より手入れに手間のかかる草本の種類が多いことも指摘できる。

庭の面積と植物から推察できるように、庭のデザインはまちまちで、一種類の植物が大面積を占めることもない。したがって、デザインの統一性は見られないが、それを、「眺めていいのはやっぱりご家庭の庭がね。」とShさんは、眺めるのに楽しいと評価している。それは、「ご家庭の庭ですと、住んでいる方の趣味だとか好みが」わかる、つまり、植物の選択やデザインに住んでいる人の趣味や好みの現れを見るからである。作り手自身、植物の仕立て方（M）、配植（Sr）、種類（Mt）に自分の性格が庭にあらわれていると考えている。

庭はまた、作り手の価値観や美意識の表現でもある。たとえば、「気を使うのは、やっぱり、草ひきです。やっている以上は、ぼうぼうとしてきたならしくしたくないですからね（S）」、あるいは、「この春までは根こそぎ草をとるようにしていたら、――今は恥ずかしい、上っただけをきれいに（Ms）」と雑草を見苦しいと見る意見に対し、Kさんは、「雑草は雑草でかわいい花が咲いたりするから」と雑草をプラスに評価し、「めっちゃくちゃに枝がはっていても、それはそれなりにきれいだと思う」と、生い茂った枝を美しいと見ている。

４．経過をたどる庭づくり

庭は時間をかけて形をとっていく。その過程が庭づくりであるともいえる。西経堂団地では、除草と工事後の瓦礫を取り除くことから庭づくりを始めた。

表-3 作り手は庭をどのように見ているか

S :	落ち着く。花が好き、土をいじっていると楽しい。
Ks :	自分の趣味。植物は手をかければそれなりに育つ。
Sr :	花や木は手入れしてやると、やっただけのことはある。 気分転換ストレス解の場所。
Kr :	生まれた時から庭があったので庭がないのを考えたことはない。
T :	いきがしい、楽しみ。
M :	いこい、やすらぎ。花のない生活はいや。自分の物だという満足感。
O :	目で見える安心感。木があると目が安心する。
Sh :	土がある。心がなごむ。
Tk :	自分の自由にしていい。
Mt :	四季を感じさせる唯一の窓口。比較的自由になる、気ままに相手に なってくれる場所。
K :	自由になるという点で、自分の家の延長。やすらぎを得られる場。

Kr: 最初は、草ぼうぼう。すごいですよ。

Ks: ひどいの。コンクリートのかげらはあるし、古釘3寸釘みたいなのはあるし、ガラスの破片はあるし、植木鉢の壊れたのはあるし、もう、ほんとにすごかったの。だから、これまでにするのが大変だったのよ。

整地した後は土壌改良のため、客土や堆肥づくりが行われた。

Tk: 土もだいぶ買って入れました。花が植わるようになるには、ずいぶん手がかかりました。

O: 土を買いました。植木屋さんに行って買ったり。トラックで土を運んできた時には、お金を出して、バケツ2杯づつもらったりね。それから、穴を掘って、台所の塵芥ですか、あれを初め一生懸命入れました。

「すごい」「ひどい」状態から、「花が植えられるようになるまで」には、時間と労力、それに資金が投入された。「これまでにするのが大変だった」「ずいぶん手がかかった」「一生懸命入れた」ということばに現される働きかけを通じて、土の状態を変えていくのである。

鶏糞や牛糞の入手にもエネルギーがそそがれた。

T: 以前、そこに養鶏場があったんです。そこから鶏糞をもらったり。それから、馬事公苑に行くと牛糞があったんです。遠いんですけど、(ここの花づくりが好きな方と)一緒にリヤカーをひっぱってね。

Kr: 甥が、たいてい四季に来るんです。おいやげが堆肥。茅が崎から運ぶんですよ。乗用車の後ろにのっけて。

Kr: ばらを作る時はむこうに、大きな農家が牛を飼っていたんです。そこで牛糞をもらってきて。その時は、自分で抱えて来るんです。(それに)大野さんが肝入りで、牛糞をどこかから、お世話下さったんです。

機会をとらえ、様々に入手先を求めたこと、自分で体を動かして運搬したこと、同好の士が存在しグループで活動したことが、上の話からは窺える。

そのような努力の結果が、「土っていうのは、耕して、肥料やって、一生懸命やっているから、肥えてくるんです(Sr)」という自負を生み出す。

時間の経過は、作り手が庭や植物に対する知識を得ていく過程でもある。Ksさんは土いじりの経験はなく、

「見よう見真似というか、聞いたり見たりしてここまでやってきた」。この過程そのものに楽しみの要素が含まれていることをTさんは次のように指摘する。

T: いろんなことをやっていくうちに、だんだんいろんなことを覚えて行くんですよ。プロになって行くんですよ。どんな奥さんでもだんだんプロになってくる。それだから楽しいんでしょうね。

以上の話から、年月をかけ、試行錯誤しながら庭を作っていく過程を通じて、庭との関係が深まってきたことがわかる。このようにして得た植物に対する知識が、団地の植栽管理にむけられることが、「剪定する人が以外とやり方を知らないんです。どの木も同じように剪定しちゃうんです(Sr)」あるいは庭の周囲のつつじの植え込みを、「自分で剪定していいですかと聞」いて、適期に剪定と消毒をするKrさんの話に示されている。

5. 植物への愛着

「やめてしまおうとは思わなかったんです。一木一草に、あの方がくださったとか、あの時にこうしたとかいう思い出がありますからね」と、庭の植物には、特定の出来事や人物と結び付いた歴史があり、それが庭づくりを続ける要因になっていることをOさんは述べる。

たとえば、「買ってくるのが半分ですね。半分はお友達にもらったり、講習会に行ってもらったり、田舎からもらったり、親が来ていた時は親から(Sr)」と、植える植物は、園芸店からの購入以外に、さまざまな方法で手に入れられる。また、苗のやり取りもひんぱんに行われる。団地なので引越す人が残していくことも多く、残された植物は、出来事とのかかわりで大切にされる。O: 引越す時にね。これだけはどうしても生かしておきたいって。自分で持ってきて植えてらしたんです。だから大事にしているんです。

親しい間柄だけでなく通りがかりにみつくて、譲り受けることもある。

Tk: 珍しいのを、その家の方がいらっしゃると、それ一芽いただけませんかなんて言って挿し芽したり。

Kr: 環八のむこう側の農家で、きれいな菊が畑のすみに植わっているんです。そこに入って行って、あれ、一株(譲ってくれませんか)といえは、いいですよって。

上の話は植物のやり取りが、見知らぬ人同士の間で比較的簡単に行われやすいことを示唆するが、庭が区道に面しているMさんは、ポット苗を準備しておき、団地内だけでなく通りがかりに興味を示した人に分けている。

ある特定の時期や場所に関係するから大切な植物もある。Mさんのすずらんは、学生時代、昭和のはじめ、大学のキャンパスから群馬県の実家に移し植え、その後転勤先に持ち歩いてきたものである。また、Srさんは、「息子や娘が何かあった時に、ちょっと木を植える」。そ

のなかには、33年前、娘が生まれた時、高松からひいおばあさんが持ってきてくれた樺もある。

また、Shさんのもみの木は、「娘が小さいころ、クリスマスに小さい木を買ったんですよ。それが今ではそびえるように」なっている。

このようにして、植物それぞれが特別のものになっていく。この植物に対する思い入れの深さは、団地の立て替えて庭づくりができなくなるKrさんが、花供養を行ったことに端的に現れている。

Kr: この赤い菊と白い中ぐらの菊と両方、お薬師さまに花供養にもっていきました。たくさん、もう大事に持って行って、

11本でした。その前で皆さん般若心経詠みますからね。ああ、私の花、極楽にって。で、ほっとしました。おかげさまでってことでね。

むすび

共用空間の庭づくりについては、共用空間の私的占有とする見方があるが、共用空間の維持管理への住民の自主的な参画という視点でとらえるならば、「環境に対して、住み手自らの意志で、積極的に働きかけること。あるいは、既成の秩序（規約）に捕らわれずに全体の中で自己を認識しながら、独自の秩序を作り出そうとする動き」¹⁰⁾を触発する手段としての庭づくりの意義を認めることができる。ある自由度を有しながら住み手が地域環境の形成に関与する共有空間の庭を、地域オープンスペースとして評価し、適切に位置づけることが今後必要となろう。

なお、本調査は庭づくり歴のながい、したがって高齢の、主として女性を対象としており、属性の違いによる意義の違いの有無を含めより詳しい研究が必要である。

注

- 1) Francis, M (1991): The Everyday and the Personal. *The Meaning of Gardens*: The MIT Press, 206
- 2) 同上 (1989): The urban garden as public space. *Places* 6, 53-59

表-4 庭と公園とのちがい

S :	公園は遊ぶ所だけれど、庭は細かく神経を使うところ。公園は大ざっぱでいい。庭は自分の好みでちまちま植えても、きれいにすればいい。
Ks :	緑道は見ただけ。庭は、自分で手をかけ、自分の思うようにできる。
Sr :	ちがいは、育つ植物をみること。公園ではできない。
Kr :	公園は人の物。味気ない。庭は自分で手を入れられる。公園のように気どったところではないし、楽。
T :	公園は整備されて決りきっている。庭は思い思いのものを植えてやれる。
M :	公園はその道の人が計画して作られた庭。なじむって言うのは、雑草もあったり、身近な花。
O :	家の庭の方が愛着がある。公園は管理された場所という観念がある。きれいであたりまえ。この一本だけ特別っていうのはない。
Sh :	花の数、種類がちがう。庭は住んでいる人の趣味や好みがある。公園はさわれない、見るだけ。
Tk :	公園は大きなまとまり。庭はこじんまりしている。
Mt :	公園はいろいろな規制がある。庭は自分の好きな時に好きな事が出来る。自分の占有物。公園は大勢でいろんな事が出来る場所、庭はそうはいかない。
K :	公園はいろいろな人たちが満足いくように、見た目がきれいだとか危険がないようにということ整備するしかしようがない。庭は、その家のやり方だから、自分の好きなように雑草もはやしておける。

- 3) 同上 (1987): Some Different Meanings Attached to a City Park and Community Gardens, *Landscape Journal*, 6, 2
- 4) 福田由美子, 延藤安弘他 (1991): 人間・環境の相互浸透過程からみた共用空間の自主的管理の考察: 日本都市計画学会学術研究論文集, 大塚貴子, 延藤安弘他 (1992): 自己-環境-関係システムとしての庭づくりの考察: 日本建築学会大会学術講演梗概集
- 5) 民族誌学の聞き取り調査法による。この方法は被験者自身の観点を収集するのに適している。この方法をつかった庭づくりに関する研究は, Francis, M. (1989): *Gardens in the Mind & in the Heart*, Center for Design Reserch, U of California
- 6) 調査の詳しい結果は, 小野佐和子編 (1992): 西経堂団地庭のおはなし, 世田谷まちづくりセンター
- 7) 前掲注 2
- 8) イーファー・トゥアン (1992): トポフィリア, せりか書房, 25, 30
- 9) Riley, R. B. (1988): From sacred grove to Disney World. *Landscape Journal* 7-2
- 10) 前掲注 4 (1991)

表-5 庭にある植物(1993年3月)

区画	面積 m ²	木 本 類		草 本 類	
		高 木	低 木	多 年 草	一年草
S	150	ツバキ、ネズミモチ、マツ、ミカン、モミジ、モクレン	アオキ、アケビ、クチナシ、ハクチョウガ、ナンテン、マンリョウ	アイリス、アメリカギク、アジュガ、アネモネ、オイランソウ、オダマキ、カンパニュラ、キク、ギボウシ、クレマチス、ゴシキトウガラシ、シュラン、スミレ、ツワブキ、ナデシコ、フキ、プリムラ、ヘメロカリス、ミズヒキ、ミヤコウスレ、ミント、ムラサキツユクサ、モントブレチア、リコリス、リボングラス、ルピナス、ヤブラン、ユリ	ノースポール
Ks	129	ウメ、カキ、カリナ、ゲッケイジュ、ツバキ、ハナミズキ、モミジ	アジサイ、オオサルズベリ、ウメモドキ、クチナシ、グミ、サザンカ、サツキ、サンショウ、シャクナゲ、ジャスミン、ジンチョウガ、ニンドウ、スグリ、ツツジ、ナツツバキ、ナンテン、ハナズオウ、ヒメリンゴ、ピラカンサ、フヨウ、ボタン、ボボエ、マンリョウ、ユズ、ユスラウメ、レンギョウ	アイリス、アガパンサス、アジュガ、アスチルベ、アネモネ、アヤメ、アロエ、エビネ、ウド、オイランソウ、ガーベラ、カクトラノオ、カンゾウ、カンナ、キキョウ、キク、ギボウシ、クレオメ、クロッカス、シラン、シャクヤク、シュラン、スイセン、スズラン、スミレ、タチアオイ、タマスダレ、チューリップ、ツワブキ、ノボタン、ハナニラ、ヒヤシンス、プリムラ、ベンケイソウ、ムスカリ、モミジアオイ、モントブレチア、ユリ、リュウノヒゲ、リンドウ、ルピナス	カラシナ、ケール
Sr	116	ウメ、イチョウ、オリブ、カキ、ゲッケイジュ、サクラ、ザクロ、ツバキ、ビワ、モクレン	アジサイ、アンズ、キウイ、クコ、クサツゲ、ヘデラ、ナンテン、ネズミモチ、ハナズオウ、バラ、ピラカンサ、ミカン、ヤマブキ	アイリス、アヤメ、アガパンサス、アネモネ、オモト、カラカサガヤツリ、カンゾウ、カンナ、サボテン、ジギタリス、シラン、スイセン、タマスダレ、チューリップ、ノコギリソウ、ノシラン、ヒガンバナ、フリージア、プリムラ、モントブレチア、ヤブラン	ハボタン
Kr	109		コデマリ、サンショウ、シモツケ、マンリョウ	アイリス、アザミ、アネモネ、アヤメ、オダマキ、キク、キショウブ、キョウカノコ、ケマンソウ、スイセン、チューリップ、ヒヤシンス、バイモ、ヒルガキツクミソウ、ホトトギス、ミヤコウスレ	キンギョソウ、ノースポール、ハナナ、ハナビシソウ、パンジー、ポピー
T	91	マツ	アジサイ、サンショウ、ツツジ、バラ、ボケ、ボタン、ミカン、ユキヤナギ	アイリス、キク、クレマチス、ジャガ、シャクヤク、スイセン、ハナニラ、モントブレチア、ヤブラン	
M	63	ウメ、マツ	ツツジ、タニウツギ、ニシキギ、バラ、ビョウヤナギ、マンリョウ、ミカン、レンギョウ	アガパンサス、アジュガ、アヤメ、キク、サボテン、ジャガ、シラン、スズラン、タチチンモントウ、ツワブキ、トクサ、ハナニラ、ヒマラヤユキノシタ、ミヤコウスレ、モントブレチア、ユリ	アオナ、パンジー
O	43	クス、ツバキ、モモ	アジサイ、クチナシ、グレープフルーツ、サンショウ、シャリンバイ、ジンチョウガ、トベラ、ナンテン、ニワウメ、ビョウヤナギ、ムラサキシキブ、レンギョウ	エビネ、キョウカノコ、ジャガ、スイセン、ピンカ、ホトトギス	
Sh	43	カキ、サクラ、ザクロ、スギ、モミ	アオキ、アジサイ、クチナシ、サザンカ、サンショウ、ジンチョウガ、タケ、ナンテン、フジ、マサキ、ムラサキシキブ、ヤマブキ、レモン	スイセン、ヒヤシンス、フクジュソウ、ホトトギス	
Tk	29	ウメ、ゲッケイジュ、ツバキ、モクセイ、モミジ	アジサイ、クスダマクサギ、サンショウ、ジンチョウガ、センリョウ、タニウツギ、ツツジ、ニワウメ、ニワナサカマド、ナンテン、ボケ、マンリョウ、ヤツデ	アイリス、アジュガ、アスチルベ、アヤメ、エビネ、オモト、カラ、ギボウシ、キョウカノコ、シラン、スイセン、バイモ、ハラン、ヒガンバナ、ヒヤシンス、ヒマラヤユキノシタ、ミヤコウスレ、リコリス	
Mt	16	ツバキ、ヒノキ	アジサイ、ニシキギ、ニワウメ、ミカン	オキザリス、キク、スイセン、チューリップ、ハナニラ、ムスカリ、	ノースポール
K	6		ジンチョウガ、ナンテン、パンペイユ、レモン	オモト、ハラン、ホトトギス	

・文字は積算資料(1993年7月)に記載のないもの

Summary : To know how people personalize their environment with gardening, I conducted in depth, open-ended interviews with a selected sample of gardeners living at a housing complex in Tokyo. The results are :

1. The garden is semipublic space.
2. The differences between park and garden are seen in a sense of distance, freedom in activities and design reflecting gardeners' personality.
3. The close relationship between a gardener and his/her garden is developed by a process of gardening, everyday care for growing things and plants with a special memory.